

図書紹介



菅沼悠介著  
講談社  
一一〇〇円

伊藤 修一

著者の専門の古地磁気学には「堆積残留磁化の獲得深度問題」という難問があったそうです。著者はこの難問に挑み、世界で初めて獲得深度を決定しました。

この難問に挑んでから解決に至る記述が本書のハイライトで、この辺りから大変面白くなります。

著者はまだ「チバニアン」を意識していなかったようですが、次の研究テーマの「松山—ブルン境界の年代決定」が、著者を「チバニアン」へと導くことになりました。

偶然にもこの研究テーマに最適なフィールドが房総にあったのです。また、房総は岡田教授のホームグラウンドのような場所でもあり、「松山—ブルン境界の年

代決定」も色々な研究者の協力を得て高精度で決定されました。

これらの業績が評価され、著者は新たに結成された「チバニアン」申請のタスクチームに加わり、実質的リーダーとして活躍することになります。

「チバニアン」認定までにはN氏とのトラブルがありました。なぜN氏が嫌がらせのような行動をとるのか、よく分かりませんが、本書に経緯が説明されており、多少はN氏の気持ちも理解できます。

銚子西部にもチバニアン期の地層があり、遺跡や地形を含めて新しいジオサイトになるかもしれません。その準備として一読をお薦めします。

銚子ジオパーク講座  
受講の感想  
鹿島 雄三

一つ一つが新鮮で感動的でした。

旅行に行く時には、現地ガイドをしてもらう事がよくあります。その時、現地ガイドさんは皆さん必ず親切丁寧に対応してくれます。

私も銚子の事をもっと勉強して、銚子を訪れる方々の心に残るガイドになりたいと同時に、これからの銚子の若い人たちに素晴らしい銚子の文化や習慣を伝え、残し続けていけたらいいなあと思います。

私は仕事柄、日常生活の中で異業種の方と接する機会が少なく、また、家内の勧めもあり、自分とは違った経験・体験をしてきた方と知り合いになり、多くの方々のお話を聞き、知識を広げたいと思い、講座に参加しました。この講座を受講する前までは、ジオパークと聞くと、重要な地質だけの事と思っていました。しかし、私達の住んでいる地域の文化や産業、食など人々の営みも含まれていると聞いて、今まで自分なりに知っていた事柄を、より深く、総合的に知ることができ、とても身になりました。

銚子の地層の歴史や出土品のこと、銚子に日本一の産業がたくさんあるのはなぜか？ということ、青パイヤの料理のこと等、各回テーマの講義を聞く度に、それぞれ

パーク市民の会とナルク銚子共催のジオサイト清掃が実施された。

今回の清掃は、犬吠埼周辺で実施され、銚子ジオパーク市民の会十五名ナルク銚子十二名、県職員二名の計二十九名が参加した。県職員は海岸漂着物調査目的で参加。

当日の作業時の天候は曇りだったが、気温は少し高く、君ヶ浜側は風があつたが、遊歩道側は風が遮られ汗ばむ陽気であつた。

今回も市民の会は崖下、ナルクは君ヶ浜を担当した。君ヶ浜側はブラごみ特に細かなものが多く作業に手間取つた。一方遊歩道側は、小さなごみは比較的少なかつたが、浮き等の漁具や材木等の大きな漂着物が多かつた。相変わらずペットボトルのポイ捨てが多く、観光客のマナーの向上が望まれる。

恒例の清掃終了後の無料ガイドは、新型コロナウイルス感染防止対策のため今回も中止となった。

市民の会主催  
勉強会が再開

コロナ禍で延期されていた勉強会が、去る10月15日、房州会員の提案を受け映写会として実施されました。

映画は「踊る大銚子」と「黒潮の街銚子」の二本立てです。銚子が市政施行をした1933年(昭和8年)2月11日に撮影された映像を基に、1993年頃に製作されたものです。案内役は房州文字会員です。

映像が映し出されると、あちこちから、「何処だ」、「知ってるよ」などの声が出て、暫し懐かしい光景に見入りました。(S・M)



犬吠埼清掃

田中 豊

九月二十日(日) 銚子ジオ

